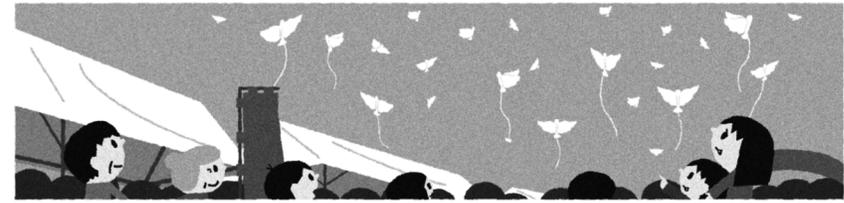


福幸への願いを込めた新しいまちの旅立ち

宮城県東松島市・野蒜北部丘陵地区震災復興事業(2012年◆平成24年~)



仙台駅から、J R仙石東北ライン快速に乗って約30分。右手に松島、奥松島の美しい風景が見えてくると、まもなくJ R野蒜駅に着する。駅前に降り立つと、目の前に広がるのが、東日本大震災被災地中最大規模の高台移転地、野蒜ヶ丘(野蒜北部丘陵地区)だ。

去る11月20日、この駅前広場で「ひがしまつしま福幸まつり」が開かれた。この日、野蒜ヶ丘では、造成した278区画の宅地のうち、最後の92区画の引き渡し完了。同時に、市民交流や観光の核となる野蒜市民センターと奥松島観光物産交流センターもオープンした。これにより、東松島市では7つの集団移転地で計画した717区画の宅地すべての引き渡しが終り、防災集団移転促進事業の宅地整備が完了したこととなる。「ひがしまつしま福幸まつり」は、それらを祝って開かれたものだ。

会場では、蒸し牡蠣やだまこ汁、樽酒などがふるまわれたほか、この地に来年移転する宮野森小の子供たちによる「ふるさと宮野森太鼓」なども披露。地元物産の販売などをする71ものテントが立ち並び、新たなまちの誕生を祝う多くの人の笑顔があふれた。

山を切り拓きまち全体を移動

東松島市は、東日本大震災により市街地の約65%が浸水、多大な被害を受けた。なかでも野蒜地区

定を締結。以来、URは野蒜北部丘陵地区と東矢本駅北地区の復興市街地整備事業と災害公営住宅の整備を進めてきた。

UR都市機構東松島復興支援事務所の清水良祐所長は、当時を振り返る。「容易でない工事ですが、とにかく一日も早くという思いでしたね。そのために、市には開発地区の土地を全面買収していただき、我々は設計施工を一括発注するCM方式を採用。工事をスピーディに進める環境を整えました」



総延長1.2キロメートルもの巨大ベルトコンベヤーと巨大重機の投入だ。ひがしまつしま福幸まつり。鏡開きで新たな門出を祝う。

5倍の積載量がある50トンダンプや巨大パワーショベル、ブルドーザーも使用し、通常で3年以上かかるというわかれた搬出期間を、わずか10カ月に大幅短縮した。現在、ベルトコンベヤーを撤去した後のルートは道路に、仙石線と交差するトンネル状の空洞は駅への連絡通路に転用。新たなまちで、その面影を伝えている。

J R仙石線が運転を再開、新たな野蒜駅と東名駅も開業された。今年の5月からは、宅地引き渡しが始まる。海を見下ろす高台では、待ちかねた人々が続々と家を建築中だ。既に開業された野蒜市民センターなどに続き、今後、保育所や商店、病院、福祉施設がオープン予定。来年1月からは、地元木材を使った宮野森小学校新校舎での学校生活もスタート。そして、6~8月には170戸の災害公営住宅の入居が開始される予定で、約1400人が暮らす新しいまちが、いよいよ動き始める。

「仮設住宅で孤独死を絶対出さない、というのが、私の強い思いでした。そのために二日とあけずに懇談会を開き、500以上の要望を聞いてきたんです。そのすべてに、URの清水さんはつきあってくれて、どんな細かいことも聞いて応えてくれた。だからみんな、前向きに待つことができたんです。本当に頭が下がりますね」